

定期作況報告

平成29年7月
(7月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温および平均気温はともに平年並であった。降水量は平年より多かった（平年比165%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比77%）。

7月上旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年よりやや高く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年並であった（平年比87%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比127%）。

7月中旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年より高く、平均気温は平年より極めて高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比260%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比136%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並であった。

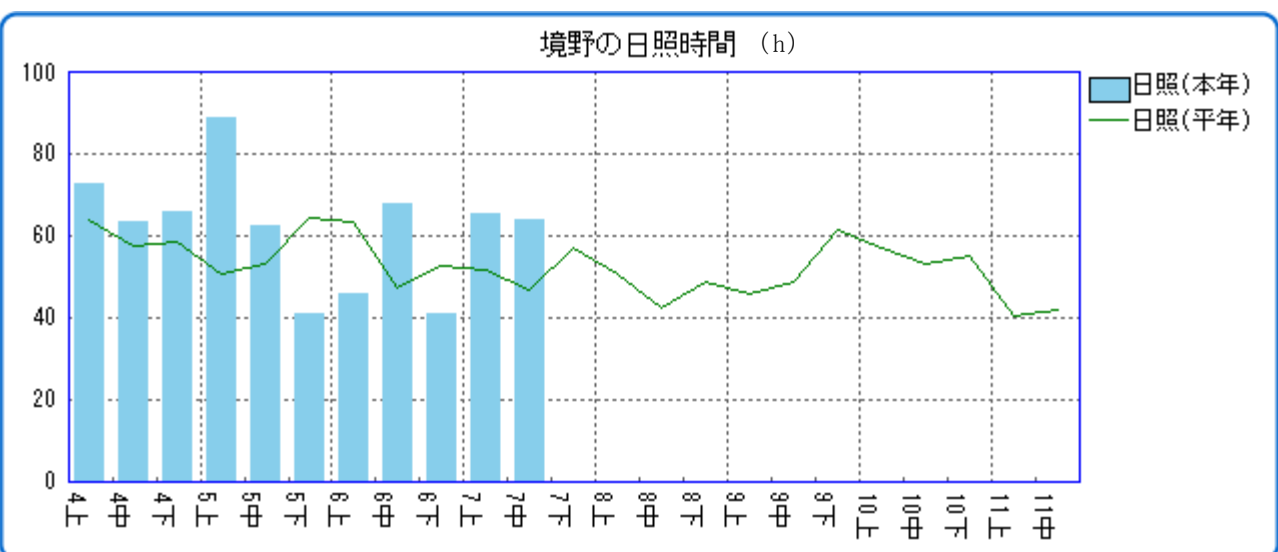
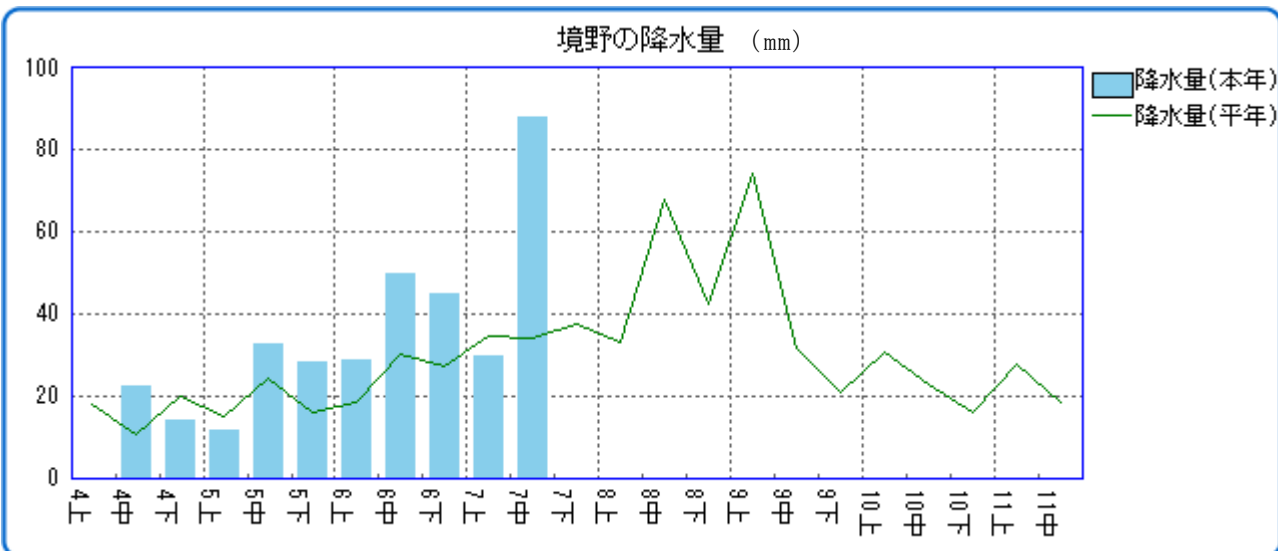
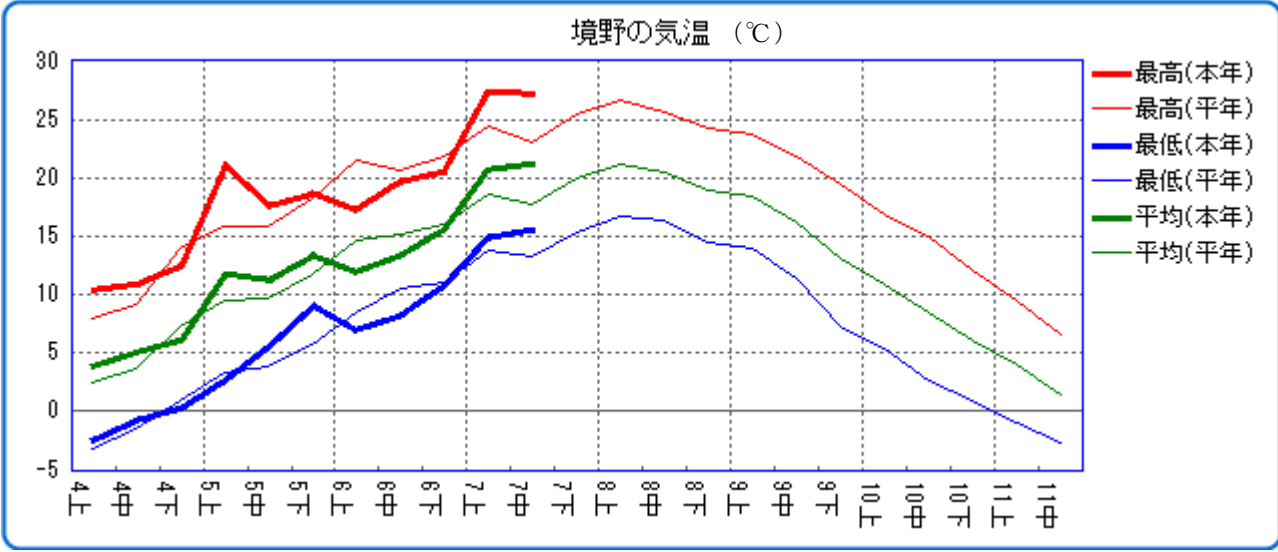
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月 下旬	15.6	16.0	-0.4	20.6	21.8	-1.2	10.7	11.1	-0.4
7月 月上旬	20.7	18.6	2.1	27.4	24.4	3.0	14.8	13.8	1.0
7月 中旬	21.2	17.8	3.4	27.2	23.1	4.1	15.5	13.3	2.2

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月 下旬	45.0	27.2	17.8	40.9	52.9	-12.0
7月 月上旬	30.0	34.4	-4.4	65.5	51.5	14.0
7月 中旬	88.0	33.9	54.1	63.9	46.9	17.0

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：やや不良

事由：6月下旬の平均気温は平年並に経過したが、7月上旬以降は極めて高く経過し、登熟はやや早く進んでいる。稈長、穂長は平年よりやや短く、穂数は少なかった。倒伏は未発生である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	81	84	△3
穂長(cm) (7月20日)	8.1	8.8	△0.7
穂数(本/m ²) (7月20日)	644	735	△91

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：やや不良

事由：6月上中旬の平均気温が平年より低く経過したことから生育は緩慢となり、出穂期は平年より3～4日遅かった。開花後の7月上中旬は降水量が平年並から多く、気温も高かったことから赤かび病の発生が認められる。稈長、穂長は平年並で、穂数は多い。7月16日の大雨によって両品種とも倒伏程度は甚となった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	6.26	6.23	3	6.25	6.21	4
稈長(cm) (7月20日)	93	97	△4	90	94	△4
穂長(cm) (7月20日)	7.9	8.0	△0.1	7.5	7.4	0.1
穂数(本/m ²) (7月20日)	799	595	204	803	609	194

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、27年(最豊)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況：平年並

事 由：7月上～中旬の平均気温が平年より高かったため、葉数は平年をやや上回っているが、草丈は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	182.6	181.4	1.2
葉数(枚) (7月20日)	13.2	12.6	0.6

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況：やや不良

事 由：6月下旬以降の気温が平年並から高く経過したため、生育の遅れは回復しつつある。開花始は平年より1日遅い7月18日であった。本葉数は平年をやや上回っているが、主茎長は平年を下回り、分枝数も平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.18	7.17	1
主茎長(cm) (7月20日)	51.2	56.7	△ 5.5
本葉数(枚) (7月20日)	8.3	7.7	0.6
分枝数(本/株) (7月20日)	4.4	5.1	△ 0.7

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：やや不良

事由：6月下旬以降の気温が平年並から高く経過したため、生育の遅れは回復しつつある。本葉数は平年並からやや多いが、主茎長と分枝数は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.21	—	—	7.24	—
主茎長 (cm) (7月20日)	17.7	23.6	△ 5.9	19.5	21.7	△ 2.2
本葉数 (枚) (7月20日)	7.4	7.1	0.3	8.2	7.2	1.0
分枝数 (本/株) (7月20日)	1.5	3.1	△ 1.6	1.2	3.1	△ 1.9

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：6月下旬以降の気温が平年並から高く経過したため、生育は回復し、開花始は平年並の7月8日であった。草丈は平年を下回っているが、本葉数と分枝数は平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.8	7.8	0
草丈 (cm) (7月20日)	37.5	47.1	△ 9.6
本葉数 (枚) (7月20日)	3.6	3.3	0.3
分枝数 (本/株) (7月20日)	6.5	5.3	1.2

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：萌芽は平年より早かったものの、6月上・中旬の気温が低く経過したことから、開花始はほぼ平年並であった。7月上・中旬は高温で、全般に降水量も多かったことから、茎長は両品種ともに平年よりやや長い。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	6.29	6.30	△ 1	6.30	6.30	0
茎長(cm) (7月20日)	57	51	6	83	70	13
茎数(本/株) (7月20日)	4.8	3.9	0.9	3.1	3.5	△0.4

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：6月中は低温傾向であったが、7月上旬以降高温となったため、生育への影響は相殺され、各調査項目とも概ね平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	55.6	55.3	0.3	53.7	53.4	0.3	51.9	47.5	4.4
生葉数(枚) (7月20日)	20.4	18.7	1.7	22.4	20.3	2.1	16.6	15.0	1.6
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	554	575	△ 21	577	598	△ 21	347	364	△ 17
根重 (g/個体) (7月20日)	295	270	25	275	290	△ 15	115	104	11
根周(cm) (7月20日)	22.7	22.6	0.1	22.9	23.6	△ 0.7	15.8	16.2	△ 0.4

注1) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、26年(最豊)を除く5か年の平均。

9) 牧草 (チモシー)

作況：平年並

事由：1番草の乾物収量は平年比102%と平年並であった（前報）。2番草再生時の草丈は平年並で、欠株の発生も認められていない。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
被度 (%) 2番草再生時(7/13)	100	100	0
草丈 (cm) 2番草再生時(7/13)	38	38	0

注) 平年値は前7か年中、平成24年（最豊）、27年（最凶）を除く5か年の平均。

10) たまねぎ

作況：平年並

事由：7月上旬以降、気温は高めに推移し、降水量は多かったことから、生育は概ね順調である。両品種ともに球生重は平年よりやや優り、草丈および生葉数、葉鞘径、葉身生重は概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.13	7.10	3	7.19	7.21	△2
草丈 (cm) (7月20日)	86.5	85.5	1.0	87.8	84.6	3.2
生葉数 (枚) (7月20日)	9.6	9.7	△0.1	9.4	9.7	△0.3
葉鞘径 (mm) (7月20日)	21.9	21.8	0.1	21.8	21.1	0.7
葉身生重 (g) (7月20日)	172.0	166.8	5.2	152.3	140.2	12.1
球生重 (g) (7月20日)	116.5	109.0	7.5	73.3	66.5	6.8

注) 平年値は前7か年中、平成23年（最豊）、25年（最凶）を除く5か年の平均。